

大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

こおりやまじゆくほんじん・つばきのほんじん
郡山宿本陣・椿の本陣



西国街道から見た本陣



御成門（おなりもん）から見た式台玄関



旅に疲れて寝転ぶ事もできない「上段の間」



庭先の手水鉢と水門（排水口）ともしき石組

所在地： 茨木市宿川原町 3-10
 交通： 阪急バス郡山団地行き宿川原下車
 西へ徒歩2分
 見学： 無料(5人以上のグループで見学する事、
 10日前までに電話で事前予約が必要。
 なお電話は9時～17時の間にする事)
 休館日： 毎週月曜日・火曜日 国民の祝日
 年末年始（12月20日～1月10日）
 TEL： 072-643-4622（個人宅ですので取扱いに注意してください）
 文化財指定等： 国の史跡に指定されている

12月。京都・四条河原町の南座の正面には歌舞伎の顔見世興行のまねきが掲げられる。歌舞伎の演目は多彩で、弁慶が立ち回る『勧進帳』や赤穂浪士が活躍する『仮名手本忠臣蔵』がある。『勧進帳』は東大寺再建に尽くした俊乗房重源上人の姿が見え隠れしており、建築とは縁が深い。一方、『忠臣蔵』の発端となる人物、浅野内匠頭長矩の逗留した宿場が大阪府内を通る西国街道にあり、本陣もあって建築と全く縁が無い訳でもない。

西国街道は江戸時代の山陽道の呼称であり、大阪府北部の島本町・高槻市・茨木市・箕面市を通っている。西国街道の宿場の一つに郡山宿があり、此処に郡山宿本陣がある。正式には「摂津郡山駅本陣」と言うが、本陣の正門横に五色の花を咲かせる椿の大樹があり、いつのころからか「椿の本陣」と呼ばれる様になった。

本陣が当地に建てられた時期については、詳らかにできる資料が無く定かではない。現在の建物は、享保3年(1718年)に元の本陣が類焼にあって焼失し、享保6年(1721年)に西国諸大名の寄付によって再建されたものである。浅野内匠頭長矩は正確に言えば、現存している建物に投宿しておらず、記録では類焼してしまった本陣に逗留したと言う話になる。

本陣の建物は母屋が2棟、土蔵が3棟、納屋が1棟、茶室が1棟ある。2棟の母屋は一部で繋がっており、一体化している様にも見えるが、棟は完全に別れており、別棟である事を示している。街道沿いに建っている母屋は平屋建て、主要な屋根は葺瓦葺き、下屋部分は本瓦葺きとなっており、入母屋造り、平入りである。平面形態は通り庭形式の土間を持った玄関、その奥に漆喰で造られた竈（へっつい）を設置した台所があり、ほぼ6部屋が障子や戸・襖で仕切られた空間が広がっている。一方、正門奥に式台を構えて格式高く建っている第二の母屋は平屋建て、主要な屋根は葺瓦葺き、入母屋造り、妻入りである。式台玄関の屋根は反りのある本瓦葺きとなっており、此方も妻入りで、意匠性に富んだ玄関となっている。内部には上段の間があり、旅にあっても格式と威厳を保たねばならなかった諸大名の苦勞が偲ばれる。

(神保 勲)